公益社団法人日本薬剤学会　2021 年度事業報告

（2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日まで）

公益目的事業 1「薬剤学及び関連諸領域に関する情報提供及び啓発，研究の振興，調査研究並びに評価により，薬剤学の進歩とその成果の利用普及を図る事業」

まえがき

今年度は公益社団法人としての責務を遂行するに当たり，上掲の「公益目的事業 1」を着実に推進するための事業計画を立案し，理事会を中心としたガバナンス体制の下，着実に事業の運用を図った．また，健全な財務基盤の確保も円滑な事業運営の課題であるが，事業ごとに精査を行い，こちらも適正運用の達成に努めた．

会長

1　APSTJ 2025 推進事業
- 理事会主導により，日本薬剤学会の 2025 年へ向けたあり方“APSTJ 2025”の検討を行った．
- 日本薬剤学会の今後の活動について，若手世代を中心に議論することを目的として令和のビジョン委員会を設置し，活動を開始した．
- 国内外の関連学協会との交流事業を推進した．

2　国際標準医薬分業推進事業
- 国際標準的な医薬分業（完全分業あるいは強制分業）への移行について，必要な情報を整理しつつ，実施に向けた戦略の立案等，検討を行った．

副会長総務担当理事

1　学会賞等表彰事業

1.1	薬師メダル	受賞者なし
1.2	学会賞	受賞者　山本 昌
1.3	功績賞	受賞者　金 淳二
1.4	奨励賞	受賞者　黒﨑 友亮，佐藤 秀行，清水 太郎
1.5	タケル&アヤ・ヒグチ記念栄誉講演賞	---当期設定なし---
1.6	タケル&アヤ・ヒグチ記念賞	受賞者　小暮 健太朗
1.7	永井記念国際女性科学者賞	受賞者　Catherine Duggan
1.8	創剤特別賞	受賞者なし
1.9	優秀論文賞	受賞者 1) Kohsaku Kawakami, Kyosuke Suzuki, Masafumi Fukiage, Maki Matsuda, Yohei Nishida, Michinori Oikawa, Takuya Fujita 2) Maaya Omori, Taiga Uekusa, Jumpei Oki, Daisuke Inoue, Kiyohiko Sugano
1.10	製剤の達人称号	受賞者 佐々木 仁，道中 康也，権 英淑，赤松 亮
1.11	国際フェロー称号	受賞者　Catherine Duggan
1.12	「薬と健康の週間」懸賞論文	第 1 席　川喜多 佑香 第 2 席　中川 舞奈香 第 3 席　山田 咲良

2　創剤開発・研究賞表彰事業

2.1	旭化成創剤開発技術賞	受賞者　麓　伸太郎
2.2	旭化成創剤研究奨励賞	受賞者　井上　大輔

渉外担当理事

1　学生主催シンポジウム事業

薬剤学に関わる学生の研究室・大学間を超えた活発な交流と，口演能力や講演会運営スキルを涵養することを趣旨として，年会において学生主催シンポジウム SNPEE 2021（「Broaden your horizons ～がん克服に向けた薬剤学の多面的アプローチ～」）を 36 年会においてオンライン開催した．

2021 年 5 月 14 日（オンライン開催）参加者　約 80 名

2　広報委員会事業

学会ウェブサイトをより使いやすくすると共に，本学会の活動の広報や，会員の拡大のために関連諸領域の研究者への本学会のアピールを図った．また，オンライン化した「薬剤学」誌のウェブサイトからの情報発信を編集委員会と協力しながら行った．

3　医薬品の包装と情報分科会事業

薬剤学を支える包装・情報に関し，専門の研究者・技術者が協議し，本学会会員に情報発信を行うことを目的に，36 年会において「医薬品包装シンポジウム」をオンライン開催した．

「医薬品包装の新たな潮流と将来展望（2021）　～薬機法改正，環境保護，デジタル技術～」

2021 年 5 月 15 日（オンライン開催）　参加者 91 名

4　教育分科会事業

薬剤学に関わる教育問題について，専門委員が協議して提言を行う他，年会においては以下のとおり薬学教育シンポジウムをオンライン開催した．

「薬学教育シンポジウム」（コロナ禍での薬学教育の実践）

2021 年 5 月 15 日（オンライン開催）参加者　60 名

国際連携担当理事

1　英語セミナー事業

国際共通言語である英語での討議能力を養うため，訪日した海外研究者・国内の研究者等を講師として招聘し，講義・ディスカッションの全てを英語で行う Global Education Seminar を COVID-19 の影響により 2021 年度はオンラインで開催した．

1.1　第 1 回英語セミナー

2021 年 7 月 1 日　オンライン：参加者 157 名

1.2　第 2 回英語セミナー

2021 年 12 月 2 日 オンライン：参加者 94 名

2　国際学会等協力事業

2.1　FIP（国際薬学連合）

FIP の Predominantly Scientific Member Organization として，Council Meeting で重要事項を審議した．

2.2　AFPS（アジア薬科学連合）

AFPS2021 の企画・運営に参画しているが，コロナ禍の影響で AFPS2021 の開催は 2022 年に延期する事が決定された（Hanoi　University of Pharmacy の Prof. Dr. Nguyen Thanh Binh によりベトナムで開催予定）．

2.3　第 4 回日韓若手薬剤学研究者ワークショップは、COVID-19 の影響で開催が延期された．

機関誌担当理事

1　「薬剤学」編集委員会事業

「薬剤学」誌の企画編集と「薬と健康の週間」懸賞論文の選考を実施した. 原著論文については J-STAGE での Web 公開と同時に，他の記事は Web 公開の半年後から全情報を公開し，「薬剤学」の引用率向上に努めてきた．更に 2021 年度から「薬剤学」の発行形態を「年 4 回、いずれも冊子体および web 配信（J-STAGE）」に変更し会員への利便性を向上した．

2　投稿論文審査委員会事業

「薬剤学」誌への投稿論文を審査した．また，論文投稿規程を一部変更し、利益相反等に関する項目を追加した．優秀論文賞の選考は、次年度より毎年行う事とした．

3　学会誌出版事業

3.1　機関誌「薬剤学」

「薬剤学」編集委員会の担当する依頼原稿と投稿論文審査委員会の審査による一般論文で構成される「薬剤学」誌を以下のとおり発行した．

Vol. 81 No. 2　2021 年 4 月 1 日発行
Vol. 81 No. 3　2021 年 7 月 1 日発行
Vol. 81 No. 4　2021 年 10 月 1 日発行
Vol. 82 No. 1　2022 年 1 月 1 日発行

英文論文についても積極的な投稿促進を図った．

3.2　公式欧文誌「Journal of Drug Delivery Science and Technology」

昨年度に引き続き JDDST への投稿や購読促進を図った．2021 年度は以下の通り発行した．

Vol.62	April, 2021	Vol.63	June, 2021
Vol.64	August, 2021	Vol.65	October, 2021
Vol.66	December, 2021	Vol.67	January, 2022
Vol.68	February, 2022	Vol.69	March, 2022

書籍担当理事

1　出版委員会事業

1.1　本学会の事業に関連する下記の書籍を発行した.

「添付文書がちゃんと読める製剤学」（編集：日本薬剤学会 出版委員会）

1.2　超分子薬剤学 FG 及び前臨床開発 FG と共同で企画した「デジタルトランスフォーメーションで変わる医療」を月刊誌 Pharm Tech Japan（じほう社）にて連載継続中.

技術担当理事

1　製剤技術伝承講習会事業

製薬企業各社でのアウトソーシングの加速により, 滅失が懸念されているわが国の製剤技術を次代の製剤研究者・技術者に継承するため，座学・実習の講習会を企画運営したが，COVID-19 の影響により今期は座学による製剤技術伝承講習会を 2 回オンラインで開催し, 対面による実習を目的とした製剤技術伝承実習講習会は開催を見送った.

1.1　第 28 回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会

「経口製剤の製剤設計と製造法」　23 名参加

2021 年 6 月 10-11 日，7 月 5-6 日　オンライン開催

1.2　第 29 回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会

「非経口製剤の製剤設計と製造法」　31 名参加

2022 年 2 月 17-18 日，3 月 3-4 日　オンライン開催

2　製剤技師認定事業

医薬品メーカー等において製剤に携わる研究･開発･製造担当者で, 日常業務の遂行上必要とされる共通の基礎的かつ専門的事項及び法規･制度の学識を修得している者を「製剤技師」として認定する．今年度も本認定試験の社会的な認知度とステータスの向上を図るため，様々な活動を展開した．今期の開催と認定者は以下のとおり.

2.1　第 12 回製剤技師認定試験　27 名受験

2021 年 10 月 17 日

東京会場：味覚糖 UHA 館 TKP 浜松町カンファレンスセンター

大阪会場：TKP 新大阪駅前カンファレンスセンター

2.2　第 12 回製剤技師認定者（21 名，合計認定者数 285 名）

相川　浩輝，安孫子　聡子，池田　佳孝，泉川　雅裕，板橋　優，岩本　裕貴，大山　真裕，小澤　雄介，織田　綾香，越智　亮太，兼子　沙奈，岸本　真幸，酒巻　晃夫，清水　香菜子，杉原　涼，鈴木　将弘，谷浦　亮，中川　純，三浦　宏明，和田　悠平，渡邉　健介

製剤・創剤セミナー担当理事

1　製剤・創剤セミナー事業

大学・製薬企業・医療機関などにおいて製剤技術に関わる研究者・学生が一堂に集い，医療・薬剤学に関し, サイエンスとテクノロジーの観点のみならず刻々と変化する時代のニーズも合わせて議論する合宿形式の討論会「製剤･創剤セミナー」を以下のとおり企画したが、COVID-19 の影響で開催を中止とした.

1.1　第 46 回製剤・創剤セミナー

「創剤には医療を変える力がある」

公開市民講演会事業担当理事

1　公開市民講演会事業

一般市民を対象とした公開市民講演会を企画し，今期は以下の通りオンデマンド配信した.

「コロナ禍における薬剤師の取り組み」「薬剤学者のつぶやき」

2021 年 9 月 25 日- 2022 年 3 月 31 日（オンデマンド配信）

FG 担当理事

1　FG 統括委員会事業

共通の研究目的等による分野横断的なユニットである各フォーカスグループ（FG）を統括する委員会として，各 FG の執行部・事業・予算の管理を行い，各 FG に対する助言や FG・理事会間のリエゾンを担当した．事業・予算の管理のための FG 統括委員会はメール会議で対応した．

以下，各 FG の活動報告概要を示す．

- 【経口吸収 FG】
  - ・第 36 年会において，「薬剤学－薬物動態学連携研究による医薬品開発の高質化と加速化」と題したラウンドテーブルセッションを開催した．演者は，小野薬品・山浦由之先生，アステラス製薬・小島宏行先生，中外製薬・中村己貴子先生．
  - ・学会誌「薬剤学」81-2 の夢対談にて，フォーカスグループのこれまでの軌跡と今後の展望について議論した．
  - ・例年実施してきた合宿討論会は，COVID-19 の影響により中止した．

- 【経皮投与製剤 FG】

  本年度も，COVID-19 の影響のため昨年度に引き続き対面での経皮投与製剤 FG 単独でのシンポジウム開催が不可能であった．しかし，薬剤学 81 巻 4 号に「夢対談」が掲載され，また，日本薬学会第 142 年会において，「経皮投与製剤に関する Up to date ―予測、評価、経皮吸収促進法から臨床における実際まで―」と題した共催シンポジウムをオンラインで開催した．参加者も最大で 295 名で総合討論も活発なものであった．

- 【経肺経鼻投与製剤 FG】
  - ・日本薬剤学会第 36 年会において，ラウンドテーブルセッション「ウィズコロナ，ポストコロナ時代の吸入剤研究開発」を開催した．
  - ・薬剤学 2021; 81(3): 206-211 に『フォーカスグループのこれまでの軌跡と今後の展望：経肺経鼻投与製剤ＦＧ（夢対談）』が掲載された．

- 【核酸・遺伝子医薬 FG】
  - ・日本薬剤学会第 36 年会にてラウンドテーブル「シンバイオティック・マテリアルの実現と新しい創薬モダリティを考える」を超分子薬剤学 FG との共催で開催した（2021 年 5 月）．
  - ・核酸シーズと DDS 技術のマッチングを目的とし、我が国の核酸 DDS 技術の調査を行い、学会やウェブサイトで報告した．
  - ・2022 年 2 月に学会誌「薬剤学」の FG 誌上対談を行った（記事の掲載は 2022 年度の予定）．

- 【薬物相互作用・個別化医療 FG】

  本 FG では，薬物動態（または薬効）の個体間変動を創薬や臨床においてどのように捉え，対処すべきかについて議論する目的で，以下の共催シンポジウムを開催した．
  - ・第 31 回日本医療薬学会年会　シンポジウム「個別化医療において活用される薬物動態の臨床および基礎研究」（2021 年 10 月 9 日　オンライン開催、10 月 15 日‐11 月 30 日　オンデマンド配信）
  - ・第 42 回日本臨床薬理学会学術総会　シンポジウム 「バイオマーカーの活用～医薬品開発からベッドサイドまで～」（2021 年 12 月 11 日　オンラインとオンサイト（仙台国際センター）の併催、12 月 20 日‐12 月 24 日　オンデマンド配信）

  また，学会誌『薬剤学』の企画で，これまでの FG 活動および今後の展望について執行部メンバーと議論を行った．

- 【医療 ZD と完全分業 FG】

  薬剤師が医師処方箋のレビュを含めた真の調剤を実践し，そのリスク管理の医療における ZD（Zero Defect）が達成されるよう　医薬分業の理念（医業薬業の完全分離，処方鑑査の徹底，薬剤師 Ethics を高揚し薬剤師の質的向上）を基盤としたシステム・教育の構築を目指す討論を今年度も E-mail 討論により進めてきた．主たる実績として，「分業推進の嘆願書」及び「日本の非分業」を作成した．

- 【DDS 製剤臨床応用 FG】

  DDS 製剤臨床応用に対する期待が高まる中，研究者間のコミュニケーションの活性化，研究成果の結実に向けた課題解決に対する取り組みとして以下を実施した．
  - ・日本薬剤学会第 36 年会ランドテーブルセッション「エクソソームによる核酸医薬 DDS を目指して．研究・開発の進展と将来展望」　オンライン開催
  - ・第 10 回 DDS 製剤臨床応用 FG 合宿討論会　新型コロナウィルスの影響により開催中止

・日本薬学会第 142 年会 一般シンポジウム「ナノ DDS 技術が拓く新たながん免疫療法」（2022 年 3 月 26 日（名古屋）） オンライン開催

- 【物性 FG】

物性フォーカスグループセミナー2021「医薬品原薬・製剤の表面・界面分析」（2021 年 9 月 17 日，参加者 102 名）をオンライン形式で開催した．セミナー終了後のアンケートは引き続き，Microsoft Forms を利用した Web スタイルとし，多数の回答が得られた．結果は物性 FG 専用の HP（URL: http://bussei-FG.com/）を通じて公開した．

- 【製剤処方・プロセスの最適化検討 FG】

下記の日程でオンライン委員会を開催した．今後の当 FG の活動内容を検討し，QbD に関するオンデマンド講演会に開催に向けて準備を進めた．2022 年度初頭に QbD オンデマンド講演会を予定している．また，QbD を普及させるための取り組みとして，QbD に関する疑問を抽出し，解決案を議論した．

・委員会開催（オンライン）：2021 年 4/22，6/14，8/19，10/13，12/16，2022 年 2/7（計 6 回）

- 【臨床製剤 FG】

調剤・製剤技術は薬剤師の根源的な職能であり，次世代に伝承していくべきものである.そのためには、エッセンシャルな院内製剤の選定、その製剤手順書の標準化、および必要な製剤技術の伝承が重要である．こうした観点から，本年度は FIP の Pediatric Formulations Focus Group と協働し，小児用臨床現場製剤に関するアンケート調査に参画し，国内でのアンケート協力を行った．また，小児用院内製剤および調剤に関する課題は，「小児製剤 FG」と連携して解決にあたることとし，その一環として第 36 年会では小児製剤 FG と共同でラウンドテーブルセッションを行うべく準備した．コロナ禍のためメール会議による討論が中心となった．

【前臨床開発 FG】

本 FG は，AI，DX，DTx，ダイバーシティ，SDGs など多様なテーマに関して，持続可能な医療と医薬品の未来を描き，サイエンスとビジネスエコシステムの両視点で広範囲な分野の意見を交流させ，多角的な観点から 近未来の医薬品や医療への貢献につなげることを目的に活動してきた．本年度は，最近の活動を振り返り，次年度からの活動を FG の名前や趣旨なども含めてメンバーで検討する機会とした．

【超分子薬剤学 FG】

複数の分子が共有結合以外の結合により秩序だって集合した分子である超分子に注目して，「超分子化学」と「薬剤学」を融合した新規学問である「超分子薬剤学」を立ち上げ，次世代の薬剤学を創製することを目的として次のような活動を行った．

・第 2 回超分子薬剤学 FG シンポジウムをオンラインで開催した．（2021 年 9 月 25 日）：参加者：約 60 名．
・「第 2 回超分子薬剤学 FG シンポジウムに参加して」が薬剤学（2022 年 82 巻 1 号）に掲載された．
・出版委員会及び前臨床開発 FG と共同で企画した「デジタルトランスフォーメーションで変わる医療」が月刊誌 Pharm Tech Japan（じほう社）にて連載継続中．
・日本薬学会第 142 年会にて一般シンポジウム「創薬・医療における人工知能の活用」をオーガナイズし、オンラインで開催した.（2022 年 3 月 28 日（月））：参加者約 200 名

【小児製剤 FG】

・第 2 回小児製剤研究会開催（2022 年 2 月 18 日，オンライン開催，約 200 名参加）
・第 13 回 EuPFI（欧州小児製剤コンソーシアム）カンファレンスのワークショップにおけるアジアンチャプターに小児製剤 FG から参加（2021.9.22）
・小児薬物療法研究会 小児製剤 WG との情報交換会（計 5 回開催、毎回約 15 名参加）
・小学生サバイバーや小児慢性疾患を抱える子ども達との懇談会（2021.12.05：15 名）
・中学生サバイバーとの懇談会（2021.4.25：20 名、2021.8.29：20 名）
・高校生サバイバーとの懇談会（2021.9.26：12 名）

2　製剤設計における種差の問題検討会（略称：製剤種差検討会）事業

2016 年度より開始された製剤種差検討会は登録団体数が 2022 年 3 月末時点で 57 に達し，学会内外での認知度も高まっている．本製剤種差検討会は Face to face での討論を活動の軸にしてきたこともあり，2021 年度はコロナ禍の影響で，残念ながら年 2 回の事例報告会（東京と京都で交互に開催）を開催できず，また本検討会の大きな財産になりつつある質問箱の追加（約 130 件の質問＆コメント）もできなかった．したがって，例年積極的に実施してきた学会誌投稿，学会講演による宣伝活動もできなかった．

なお, 経口剤グループの活動の一環として, 成果の一部を Journal of Drug Delivery Science and Technology に論文投稿し publish された．また，代表世話人であった原島秀吉先生と個人世話人であった山下伸二先生が退任され，次年度から新たに石田竜弘先生が代表世話人に就任することになった．

制度改革担当理事

1　制度改革担当事業（制度改革委員会）

- 公益社団法人として，2018 年度からの主体的運用を目指して持続性のある制度に整備した．

1.1　主体的な学会事務運営を行うために諸制度の制定・改定や専任人材を強化し，事務機能を充実した．特に今期は事務局機能強化のための規程、細則の見直しを行った,

年会長

1　年会事業

本学会最大の学術集会「年会」の企画運営を行った．会員の口頭またはポスターによる研究発表の他，下記の各種講演・シンポジウム，ラウンドテーブルセッション,ランチョンセミナー，企業展示会等の多種多様なプログラムを設けたほか，若手の連携を意図した交流会を行った．

1.1　第 36 年会の開催

メインテーマ「イノベーションとパートナーシップで持続的に社会貢献する薬剤学」

特別講演：2 演題，招待講演：2 演題

各種受賞者講演

学術シンポジウム：6 セッション

特別企画シンポジウム:2 セッション, 薬学教育シンポジウム, 医薬品包装シンポジウム, SNPEE2021, 各 1 セッション

ラウンドテーブルセッション：6 セッション

参加者数：866 名，　2021 年 5 月 13-15 日

オンライン開催

1.2　第 37 年会組織委員会の開催：2021 年 4 月 27 日，11 月 16 日，12 月 13 日，2022 年 1 月 21 日

学会運営

1　理事会

学会の業務執行の決定，理事の職務執行の監督等を行う機関であり，法人のガバナンスを担う中心的な機能を果たすべく，以下のとおり理事会を開催した．

第 1 回理事会	2021 年 4 月 26 日
第 2 回理事会	2021 年 5 月 10 日
第 3 回理事会	2021 年 9 月 30 日
第 4 回理事会	2022 年 1 月 17 日
臨時理事会	2022 年 3 月 18 日

1　総会

正会員から選挙で選ばれた代議員で構成される学会の最高の決議機関である総会を以下のとおり zoom ミーティングによるオンラインで開催した．

1.1　定時総会　　2021 年 5 月 13 日　オンライン（出席者 136 名、委任状含む）

以上

なお，2021 年度事業報告には，「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない．

（参考）事業別収支（損益ベース）一覧

2021年4月1日から2022年3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会　　（単位：円）

事業名	経常収益計	経常費用計	当期経常増減額	備考
公益目的事業				
APSTJ2025推進事業	0	0	0	
国際標準医薬分業事業	0	0	0	
学会賞等表彰事業	500,000	1,911,279	−1,411,279	
創剤開発・研究賞表彰事業	914,395	914,395	0	
広報委員会事業	112,000	0	112,000	
医薬品の包装と情報分科会事業	0	68,032	−68,032	
教育分科会事業	0	0	0	
学生シンポジウム事業	0	32,300	−32,300	
国際学会等協力事業	0	1,239,009	−1,239,009	
英語セミナー事業	0	106,875	−106,875	
機関紙出版事業	1,421,013	5,470,063	−4,049,050	
「薬剤学」編集委員会事業	0	69,915	−69,915	
投稿論文審査委員会事業	0	0	0	
出版委員会事業	63,069	0	63,069	
製剤技術伝承講習会事業	5,175,000	1,948,560	3,226,440	
製剤技師認定事業	1,230,000	947,032	282,968	
製剤・創剤セミナー事業	0	0	0	
FG統括委員会事業	370,000	160,455	209,545	
公開市民講演会事業	0	56,071	−56,071	
製剤種差検討会事業	0	0	0	
制度改革事業	0	0	0	
年会事業	16,436,029	13,132,547	3,303,482	
共通	12,395,748	16,391,416	−3,995,668	
小計	38,617,254	42,447,949	−3,830,695	
法人会計	11,259,766	8,099,260	3,160,506	
合計	49,877,020	50,547,209	−670,189	

貸借対照表

2022年3月31日現在

公益社団法人日本薬剤学会　　（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　資産の部			
1．流動資産			
現金預金	28,873,134	28,240,066	633,068
未収金	1,412	293,236	△ 291,824
前払金	143,550		143,550
前払費用	1,204,250	1,335,519	△ 131,269
仮払金	0	500,000	△ 500,000
流動資産合計	30,222,346	30,368,821	△ 146,475
2．固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	20,000,000	20,000,000	0
基本財産合計	20,000,000	20,000,000	0
(2) 特定資産			
タケルアヤヒグチ記念基金	30,000,000	30,000,000	0
ﾀｹﾙ&ｱﾔ･ﾋｸﾞﾁ記念表彰事業積立預金	4,800,000	5,000,000	△ 200,000
創剤開発・研究賞積立金	939,372	2,003,767	△ 1,064,395
学術集会基金	7,900,000	7,900,000	0
特定資産合計	43,639,372	44,903,767	△ 1,264,395
(3) その他固定資産			
什器備品	5,310	69,030	△ 63,720
ソフトウェア	122,005	255,105	△ 133,100
敷金	271,000	271,000	0
その他固定資産合計	398,315	595,135	△ 196,820
固定資産合計	64,037,687	65,498,902	△ 1,461,215
資産合計	94,260,033	95,867,723	△ 1,607,690
Ⅱ　負債の部			
1．流動負債			
未払金	2,662,120	2,706,088	△ 43,968
前受金	60,000	60,000	0
前受会費	17,971,000	18,513,000	△ 542,000
預り金	87,343	84,481	2,862
仮受金	10,000	0	10,000
未払消費税等	700,000	0	700,000
流動負債合計	21,490,463	21,363,569	126,894
負債合計	21,490,463	21,363,569	126,894
Ⅲ　正味財産の部			
1．指定正味財産			
寄付金	20,939,372	22,003,767	△ 1,064,395
指定正味財産合計	20,939,372	22,003,767	△ 1,064,395
（うち基本財産への充当額）	(20,000,000)	(20,000,000)	0
（うち特定財産への充当額）	(939,372)	(2,003,767)	△ 1,064,395
2．一般正味財産	51,830,198	52,500,387	△ 670,189
（うち特定財産への充当額）	(42,700,000)	(42,900,000)	△ 200,000
正味財産合計	72,769,570	74,504,154	△ 1,734,584
負債及び正味財産合計	94,260,033	95,867,723	△ 1,607,690

貸借対照表内訳表

2022年3月31日現在

公益社団法人日本薬剤学会　　（単位：円）

科　　目	公益目的事業	法人会計	合計
Ⅰ　資産の部			
1．流動資産			
現金預金	2,580,804	26,292,330	28,873,134
未収金	1,412	0	1,412
前払金	0	143,550	143,550
前払費用	1,204,250	0	1,204,250
仮払金	0	0	0
流動資産合計	3,786,466	26,435,880	30,222,346
2．固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	0	20,000,000	20,000,000
基本財産合計	0	20,000,000	20,000,000
(2) 特定資産			
ﾀｹﾙｱﾔﾋｸﾞﾁ基金	30,000,000		30,000,000
ﾀｹﾙ&ｱﾔ･ﾋｸﾞﾁ記念表彰事業積立預金	4,800,000		4,800,000
創剤開発・研究賞基金	939,372		939,372
学術集会基金	7,900,000		7,900,000
特定資産合計	43,639,372	0	43,639,372
(3) その他固定資産			
什器備品		5,310	5,310
ソフトウェア	0	122,005	122,005
敷金	0	271,000	271,000
その他固定資産合計	0	398,315	398,315
固定資産合計	43,639,372	20,398,315	64,037,687
資産合計	47,425,838	46,834,195	94,260,033
Ⅱ　負債の部			
1．流動負債			
未払金	986,264	1,675,856	2,662,120
前受金	60,000	0	60,000
前受会費	8,985,500	8,985,500	17,971,000
預り金	4,716	82,627	87,343
仮受金		10,000	10,000
未払消費税等		700,000	700,000
流動負債合計	10,036,480	11,453,983	21,490,463
負債合計	10,036,480	11,453,983	21,490,463
Ⅲ　正味財産の部			
1．指定正味財産			
寄付金	939,372	20,000,000	20,939,372
指定正味財産合計	939,372	20,000,000	20,939,372
2．一般正味財産	36,449,986	15,380,212	51,830,198
正味財産合計	37,389,358	35,380,212	72,769,570
負債及び正味財産合計	47,425,838	46,834,195	94,260,033

正味財産増減計算書

2021年 4月 1日から2022年 3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
１．経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	199	213	△ 14
基本財産受取利息	199	213	△ 14
特定資産運用益	318	320	△ 2
特定資産受取利息	318	320	△ 2
受取会費	22,519,000	23,056,000	△ 537,000
正会員受取会費	11,621,000	11,708,000	△ 87,000
学生会員受取会費	1,698,000	1,668,000	30,000
賛助会員受取会費	9,200,000	9,680,000	△ 480,000
事業収益	27,251,477	15,703,690	11,547,787
学術集会・委員会等事業収益	23,093,000	12,641,000	10,452,000
参加費	13,365,000	5,358,000	8,007,000
助成金・補助金	150,000	1,150,000	△ 1,000,000
寄付金・協賛金	3,388,000	3,898,000	△ 510,000
セミナー協賛金	120,000	0	120,000
広告料	2,770,000	2,235,000	535,000
出展料	3,300,000	0	3,300,000
学会誌等出版事業収益	1,484,082	607,766	876,316
購読料	433,725	171,104	262,621
投稿料・別刷料	145,200	224,070	△ 78,870
許諾料・使用料	755,157	212,592	542,565
指定正味財産からの振替	150,000	0	150,000
学会賞等表彰事業	1,414,395	1,214,924	199,471
助成金・補助金	500,000	300,000	200,000
指定正味財産からの振替	914,395	914,924	△ 529
製剤技師認定事業	1,260,000	1,240,000	20,000
受験料	840,000	800,000	40,000
認定料	420,000	440,000	△ 20,000
雑収益	106,026	3,083,250	△ 2,977,224
受取利息	100	140	△ 40
雑収益	105,926	3,083,110	△ 2,977,184
経常収益計	49,877,020	41,843,473	8,033,547
(2) 経常費用			
事業費	42,447,949	33,586,114	8,861,835
人材派遣費	817,716	0	817,716
給料手当	8,952,710	9,337,724	△ 385,014
臨時雇賃金	1,398,160	0	1,398,160
法定福利費	1,016,629	1,065,292	△ 48,663
会場費	224,400	505,180	△ 280,780
旅費交通費	497,822	556,887	△ 59,065
会議費	398,685	138,630	260,055
賞状・賞牌・副賞費	2,971,029	2,752,059	218,970
通信運搬費	6,223,325	1,168,285	5,055,040
ウエブサイト管	1,423,944	1,405,958	17,986
消耗品費	827,214	1,794,580	△ 967,366
印刷製本費	6,639,814	6,135,491	504,323
賃借料	1,770,247	1,637,580	132,667
保管料	79,200	138,600	△ 59,400
諸謝金	2,099,815	806,399	1,293,416
租税公課	0	2,000	△ 2,000
支払負担金	1,228,849	1,332,907	△ 104,058
業務委託費	4,962,670	4,659,476	303,194
雑費	915,720	149,066	766,654
管理費	8,099,260	7,603,173	496,087
給料手当	2,323,575	2,563,130	△ 239,555
退職手当	150,000	200,000	△ 50,000
法定福利費	263,854	292,414	△ 28,560
福利厚生費	63,612	0	63,612
旅費交通費	148,077	80,177	67,900
会議費	32,180	3,585	28,595
通信運搬費	1,546,029	1,098,422	447,607
ウエブサイト管	264,377	278,899	△ 14,522
減価償却費	196,820	196,820	0
消耗品費	66,880	318,713	△ 251,833
印刷製本費	196,800	99,464	97,336
賃借料	459,447	449,502	9,945
租税公課	701,070	392,570	308,500
業務委託費	395,161	427,317	△ 32,156
公認会計士報酬	990,770	984,000	6,770
雑費	300,608	218,160	82,448
経常費用計	50,547,209	41,189,287	9,357,922
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 670,189	654,186	△ 1,324,375
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 670,189	654,186	△ 1,324,375
２．経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 670,189	654,186	△ 1,324,375
一般正味財産期首残高	52,500,387	51,846,201	654,186
一般正味財産期末残高	51,830,198	52,500,387	△ 670,189
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
受取寄付金	0	1,500,000	△ 1,500,000
一般正味財産への振替額	△ 1,064,395	△ 914,924	△ 149,471
創剤開発・研究賞基金	△ 1,064,395	△ 914,924	△ 149,471
当期指定正味財産増減額	△ 1,064,395	585,076	△ 1,649,471
指定正味財産期首残高	22,003,767	21,418,691	585,076
指定正味財産期末残高	20,939,372	22,003,767	△ 1,064,395
Ⅲ　正味財産期末残高	72,769,570	74,504,154	△ 1,734,584

正味財産増減計算書内訳表

2021年 4月 1日から2022年 3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会　　（単位：円）

科　　目	公益目的事業	法人会計	合計
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
１．経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	0	199	199
基本財産受取利息	0	199	199
特定資産運用益	318	0	318
特定資産受取利息	318	0	318
受取会費	11,259,500	11,259,500	22,519,000
正会員受取会費	5,810,500	5,810,500	11,621,000
学生会員受取会費	849,000	849,000	1,698,000
賛助会員受取会費	4,600,000	4,600,000	9,200,000
事業収益	27,251,477	0	27,251,477
学術集会・委員会等事業収益	23,093,000	0	23,093,000
参加費	13,365,000	0	13,365,000
助成金・補助金	150,000	0	150,000
寄付金・協賛金	3,388,000	0	3,388,000
セミナー協賛金	120,000	0	120,000
広告料	2,770,000	0	2,770,000
出展料	3,300,000	0	3,300,000
学会誌等出版事業収益	1,484,082	0	1,484,082
購読料	433,725	0	433,725
投稿料・別刷料	145,200	0	145,200
許諾料・使用料	755,157	0	755,157
指定正味財産からの振替	150,000	0	150,000
学会賞等表彰事業	1,414,395	0	1,414,395
助成金・補助金	500,000	0	500,000
指定正味財産からの振替	914,395	0	914,395
製剤技師認定事業	1,260,000	0	1,260,000
受験料	840,000	0	840,000
認定料	420,000	0	420,000
雑収益	105,959	67	106,026
受取利息	33	67	100
雑収益	105,926	0	105,926
経常収益計	38,617,254	11,259,766	49,877,020
(2) 経常費用			
事業費	42,447,949	0	42,447,949
人材派遣費	817,716	0	817,716
給料手当	8,952,710	0	8,952,710
臨時雇賃金	1,398,160	0	1,398,160
法定福利費	1,016,629	0	1,016,629
会場費	224,400	0	224,400
旅費交通費	497,822	0	497,822
会議費	398,685	0	398,685
賞状・賞牌・副賞費	2,971,029	0	2,971,029
通信運搬費	6,223,325	0	6,223,325
ウエブサイト管	1,423,944	0	1,423,944
消耗品費	827,214	0	827,214
印刷製本費	6,639,814	0	6,639,814
賃借料	1,770,247	0	1,770,247
保管料	79,200	0	79,200
諸謝金	2,099,815	0	2,099,815
支払負担金	1,228,849	0	1,228,849
業務委託費	4,962,670	0	4,962,670
雑費	915,720	0	915,720
管理費	0	8,099,260	8,099,260
給料手当	0	2,323,575	2,323,575
退職手当	0	150,000	150,000
法定福利費	0	263,854	263,854
福利厚生費	0	63,612	63,612
旅費交通費	0	148,077	148,077
会議費	0	32,180	32,180
通信運搬費	0	1,546,029	1,546,029
ウエブサイト管	0	264,377	264,377
減価償却費	0	196,820	196,820
消耗品費	0	66,880	66,880
印刷製本費	0	196,800	196,800
賃借料	0	459,447	459,447
租税公課	0	701,070	701,070
業務委託費	0	395,161	395,161
公認会計士報酬	0	990,770	990,770
雑費	0	300,608	300,608
経常費用計	42,447,949	8,099,260	50,547,209
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 3,830,695	3,160,506	△ 670,189
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 3,830,695	3,160,506	△ 670,189
２．経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 3,830,695	3,160,506	△ 670,189
他会計振替額	3,246,513	△ 3,246,513	0
当期一般正味財産増減額	△ 584,182	△ 86,007	△ 670,189
一般正味財産期首残高	37,034,168	15,466,219	52,500,387
一般正味財産期末残高	36,449,986	15,380,212	51,830,198
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	△ 1,064,395	0	△ 1,064,395
創剤開発・研究賞基金	△ 1,064,395	0	△ 1,064,395
当期指定正味財産増減額	△ 1,064,395	0	△ 1,064,395
指定正味財産期首残高	2,003,767	20,000,000	22,003,767
指定正味財産期末残高	939,372	20,000,000	20,939,372
Ⅲ　正味財産期末残高	37,389,358	35,380,212	72,769,570

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針
(1)固定資産の減価償却
固定資産の減価償却は定額法によっている。
(2)消費税等の会計処理
消費税の会計処理は、税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高
基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。 (単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	20,000,000	0	0	20,000,000
小計	20,000,000	0	0	20,000,000
特定資産				
ﾀｹﾙｱﾔﾋｸﾞﾁ記念基金	30,000,000	0		30,000,000
ﾀｹﾙ&ｱﾔ･ﾋｸﾞﾁ記念表彰事業積立預金	5,000,000		200,000	4,800,000
創剤開発・研究賞積立金	2,003,767		1,064,395	939,372
学術集会基金	7,900,000	0	0	7,900,000
小計	44,903,767	0	1,264,395	43,639,372
合計	64,903,767	0	1,264,395	63,639,372

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳
基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。 (単位:円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	20,000,000	20,000,000	0	(0)
小計	20,000,000	20,000,000	0	(0)
特定資産				
ﾀｹﾙｱﾔﾋｸﾞﾁ記念基金	30,000,000	0	30,000,000	(0)
ﾀｹﾙ&ｱﾔ･ﾋｸﾞﾁ記念表彰事業積立預金	4,800,000		4,800,000	(0)
創剤開発・研究賞積立金	939,372	939,372		(0)
学術集会基金	7,900,000	0	7,900,000	(0)
小計	43,639,372	939,372	42,700,000	(0)
合計	63,639,372	20,939,372	42,700,000	(0)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高
固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	254,880	249,570	5,310
ソフトウェア	665,496	543,491	122,005
合計	920,376	793,061	127,315

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高
補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。 (単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上
Award Grant 助成金	(公財)永井記念薬学国際交流財団	0	500,000	500,000	0	注)
スカラシップ・七つ星助成金(年会)	(公財)永井記念薬学国際交流財団	0	150,000	150,000	0	注)
						注)
合計		0	650,000	650,000	0	

※注)いずれも当該年度内に目的たる支出が完了するため、貸借対照表上の記載はない。

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

内　容	金　額
経常収益への振替額	
事業収益	
学会誌等出版事業収益	
創剤開発・研究賞積立金	150,000
学会賞等表彰事業	
創剤開発・研究賞積立金	914,395
	1,064,395

附属明細書

1. 基本財産および特定資産の明細
「公益法人会計基準」(平成20年4月11日、平成21年10月16日改正内閣府公益認定等委員会)に定める附属明細書の記載上の留意点に従い、財務諸表の注記3および4に記載しているので、内容の記載を省略している。

2. 引当金の明細 (単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
なし	0	0	0	0	0

以上

財産目録
2022年3月31日現在

公益社団法人日本薬剤学会　（単位：円）

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)				
	現金預金			28,873,134
	現金	現金	事務局手許現金	309,194
	預金	普通預金		7,067,741
		三菱UFJ/江戸川橋	運転資金として	4,968,126
		三菱UFJ/江戸川橋(ｾﾐﾅｰ)	同上	483,029
		三住信/本店	同上	1,616,586
		郵振/会費	同上	13,074,499
		郵振/講習会	同上	8,421,700
	未収金	文献権利許諾使用料	公益目的事業の未収額	1,412
	前払金	事務所賃料	法人運営の前払分	143,550
	前払費用	加盟団体年会費	公益目的事業の前払分	1,168,072
		その他	公益目的事業の前払分	36,178
流動資産合計				30,222,346
(固定資産)				
基本財産			公益目的事業に必要なその他の活動の用	20,000,000
	預金		に供する財産であり、運用益を管理費に使用	20,000,000
		(普通)三住信/本店		20,000,000
特定資産				43,639,372
	ﾀｹﾙｱﾔﾋｸﾞﾁ記念基金		公益目的保有財産であり、運用益を公益	30,000,000
		(普通)三住信/本店	目的事業（ﾋｸﾞﾁ記念各賞表彰事業）に使用	30,000,000
	ﾀｹﾙ&ｱﾔ・ﾋｸﾞﾁ記念表彰事業積立預金			4,800,000
		郵振/会費	特定費用準備資金であり公益目的事業に使用	4,800,000
	創剤開発・研究賞積立金		公益目的事業（創剤開発・研究賞表彰事業）	939,372
		(普通)三住信/本店	に使用	939,372
	学術集会基金		公益目的保有財産であり、運用益を公益	7,900,000
		郵振/会費	目的事業（年会事業）に使用	7,900,000
その他固定資産				398,315
	什器備品	パソコン	法人の管理運営に供している資産	5,310
	ソフトウェア	公益法人会計ソフト	法人の管理運営に供している資産	122,005
	敷金	事務所借室学会ｾﾝﾀｰﾋﾞﾙ	法人の管理運営に供している資産	271,000
固定資産合計				64,037,687
資産合計				94,260,033
(流動負債)				
	未払金	学会誌編集費, 事務委託費等	公益目的事業及び法人運営の未払分	2,662,120
	前受金	認定事業受験料	公益目的事業の前受分	60,000
	前受会費	次年度以降会費	公益目的事業及び法人運営の前受分	17,971,000
	預り金	源泉所得税	公益目的事業及び法人運営の未払分	87,343
	仮受金	郵振/会費等	不明入金等の仮受分	10,000
	未払消費税等	未払消費税等	当年度納付額概算計上額	700,000
流動負債合計				21,490,463
負債合計				21,490,463
正味財産				72,769,570

報告書

2022年4月20日

公益社団法人日本薬剤学会
　会長　森部　久仁一　殿

馬目公認会計士事務所

公認会計士　馬目利昭

1．確認の方法と概要

私は、公益社団法人日本薬剤学会の2021年度（2021年4月1日から2022年3月31日まで）の財務諸表等、すなわち、貸借対照表、貸借対照表内訳表、正味財産増減計算書、正味財産増減計算書内訳表、財務諸表に対する注記、財産目録及び附属明細書について、確認を行いました。

確認に当たって、私は、試査を基礎とし、通帳、請求書、領収書等の関係証憑と会計帳簿間の照合、及び財務諸表等が会計帳簿に基づき適正に作成されているか検討を行いました。

2．意見

確認の結果、私は、上記の財務諸表等が、一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、公益社団法人日本薬剤学会の2021年度末日現在の財政状態及び同事業年度の正味財産増減を重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以　上

監査報告書

公益社団法人　日本薬剤学会
会長　森部　久仁一　殿

2022 年 4 月 22 日
公益社団法人　日本薬剤学会

監事　原島 秀吉
監事　山下 伸二

私たちは、2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日までの 2021 年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1　監査の方法の概要

（1）会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて計算書類の正確性を検討した。

（2）業務監査について、理事会およびその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2　監査意見

（1）収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録、財務諸表に対する注記及び附属明細書は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。

（2）事業報告書及び附則明細書の内容は真実であると認める。

（3）理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上